

情報 ひがし労

第 9 号

2024年 8月30日

JR東労働組合 中央本部

発行人 松下 明

立て続けに発生する自然災害から身を守ろう！①

早めの準備で台風・線状降水帯・ゲリラ雷雨から身を守る！

日本列島を横断している台風10号は動きが遅く、総雨量はさらに増え、今後甚大な災害発生の恐れがあります。台風がかかっていないところでも、これまでの記録を上回る記録的大雨となり、あまり雨の降らない地域でも、災害が発生するような雨の降り方になる恐れがあります。最大級の警戒が必要です。また、海水の温度が上昇しているため今後も台風が頻繁に発生する恐れがあります。さらに、線状降水帯やゲリラ豪雨も以前より多く発生しています。台風や大雨の際は、急な道路の冠水や川の増水が起こりやすくなりますので、定期的に更新される気象予報や各自治体の避難情報をこまめに確認するようにしましょう。

出典元：日本気象協会「知る防災」

台風接近時の行動(屋内)


tenki.jp

雨戸や厚手のカーテンを閉じる

テレビやラジオ、携帯電話などで最新の情報を確認する

懐中電灯、予備電池、非常食、飲み水や生活用水を準備する

浸水する恐れがある場合は家具や電化製品を移動させる



台風接近時の行動(屋外)

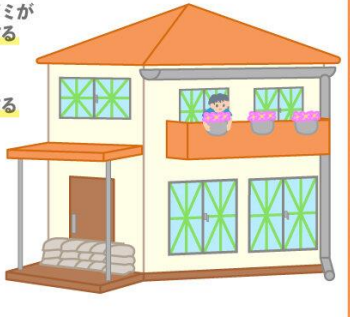
tenki.jp

雨どいや側溝などにゴミが溜まっていたら掃除する

窓や雨戸をテープやベニヤ板などで補強する

屋外やベランダで飛ばされそうなものはロープで固定する
植木鉢などは室内へ

浸水しそうな場所に土のうを積む



車の運転時に大雨に遭遇したら...

冠水した道路は、見た目だけでは水深をはかることができないため、いざ進入してしまうと、思いのほか深いことがあります。ただ、運転席にいる限り、クルマの床面以上の水深であっても、ただちには浸水してきません。そのため、危険を察知するころには、クルマが浮いて前後に動かなくなり、エンジンの吸気口が水を吸って排気管が水圧で塞がれてしまい、エンジンが停止し、そのまま立ち往生という結果にもつながりかねません。万が一車の運転中に大雨に遭遇した際は、川沿いや海岸沿いの他、高架下や立体交差のアンダーパスなど周囲より低い場所には絶対に進入せず、迂回しましょう。また、水位が上がってからの自動車避難は大変危険なため、控えましょう。



緊急用脱出ハンマーを常備しておこう！

出典元：JAFより

災害発生時は、落ち着いて柔軟に対応することを忘れないようにしましょう。